

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 57

2024年8月発行

令和6年度 企画展①

開館15周年記念展示・前編

特集 開館15周年記念

企画展15年の歩み

特別寄稿

『『ポケモンの涙』の奇跡』②

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (五十一)」



# 展示・イベント案内

## 展示・イベントのご案内

- ◎ 2024年 9/7(土) - 12/2(月)  
企画展②「開館15周年記念展示・後編」  
植田家に伝わる「煎茶道具」を中心に展示します
- ◎ 2024年 10/19(土) 13:30~ 講演会「煎茶(せんちゃ)の世界」(仮題)  
煎茶の基本や歴史について小川流煎茶7世家元・小川後楽氏にお話していただきます

※休館日は P15 をご覧ください

# Contents

- 4 令和6年度企画展①  
開館15周年記念展示・前編
- 6 錦影絵ワークショップ  
「錦影絵って、どんなん？」
- 7 こども対象イベント  
こどもの日企画&昔の暮らし体験～夏編～
- 8 特集 開館15周年記念  
企画展15年の歩み
- 10 日日植田家住宅 第14日:河内木綿のまち・やお
- 11 特別寄稿「『バケモンの涙』の奇跡」②
- 12 四会所だより(37) ～加賀屋新田会所～
- 13 植ちよぴ(冷やし旧家、かまどカレー、錦影絵プロジェクト)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (五十一)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



## 表紙写真



展示室入口にて  
バックナンバー  
配架中(一部)

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

### 掛軸《虎図》愛石[1764-不明]

画僧・愛石による虎の図。企画展「開館15周年記念展示・前編」では、これまでの企画展を振り返り、植田家に伝わる優品の展示を行なった。詳細は4・5頁を参照。なお本図の手ぬぐいはミュージアムグッズとして販売中。



安中新田会所跡旧植田家住宅

# 開館15周年記念展示・前編

15th ANNIVERSARY

2024.4/27(土)～7/28(日)



青磁輪花中皿  
(高麗青磁)



金蒔絵松竹梅文行器



愛石〈虎図〉



←展示品目録

六曲一双 貼り交ぜ屏風  
(上・左隻、下・右隻)

令和6年度企画展①

## 開館15周年記念展示・前編

八尾市指定文化財の安中新田会所跡旧植田家住宅は、2009年5月6日の開館から今年で15周年を迎えました。2019年の「開館10周年記念展」に続き、今回も過去15年間に実施した企画展の中から植田家を象徴する優品を一堂に集めた「開館15周年記念展示」を前・後編に分けて開催する運びとなりました。

「前編」では、周年記念展に相応しく、ハレの日に登場する六曲一双の貼り交ぜ屏風をはじめ、旧植田家に伝わる大阪画壇作品や豪華な漆器、往時の座敷に飾られた陶磁器類など美術・工芸品などを展示しました。9月から開催予定の「後編」では、これまでの企画展では未公開の煎茶道具を中心に展示を行います。

宝永元年(1704)の大和川付替え後に開発された安中新田会所の時代から現代まで脈々と続く旧植田家住宅の歴史、建物、日本の文化、そしてこの15年の歩みを感じていただければと思います。

### 【企画展・前編の内容】

過去15年の全企画展については、本誌8・9



蓋の裏まで意匠が施された行器



染付の大皿



河内木綿の油単



金属器・漆器・陶磁器



刀装具と扇



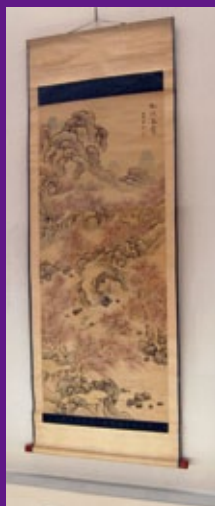
大津絵(鷹・鷹匠)



歌川国芳の浮世絵(前期)



肉筆浮世絵(歌川春貞)



愛石《桃源春霽図》



六曲一双 貼り交ぜ屏風・右隻の展示(後期)



## 過去15年間の企画展の中から 選りすぐりの優品を展示



歌川国芳の浮世絵(後期)

頁の「特集」を参照していただき、本展では過去の開館記念展及び各周年記念展でのみ出展している「貼り交ぜ屏風」「金時絵松竹梅文行器」<sup>ほか</sup>、2011年からの大坂画壇展から愛石の掛軸2幅、同じく2011年の漆器展及び金属器展から各種漆器類と家紋入り銀製酒器、2012年の大津絵展より「鷹・鷹匠」の大津絵2点、2015年の陶磁器展の高麗青磁、続く2016年の浮世絵展からは新発見の肉筆浮世絵と歌川国芳の浮世絵2点(前・後期で展示)、近年では2019年の意匠展で紹介した刀装具、コロナ禍の2020年の夏の扇展からも扇子を展示しました。また河内木綿資料では旧植田家の家紋(左市紋が正しいが右市紋)が染め抜かれた油単も旧植田家を象徴するものとして展示を行いました。

**【開館15周年記念展・後編へ続く】**

これら展示品は全て旧植田家が所蔵し、現代に伝えられたものです。古文書などの資料をあわせると4万点以上にも上る旧植田家の收藏品は、現在八尾市の貴重な文化財として保存・活用されています。9月からは旧植田家の往時のくらしぶりを伝える「煎茶道具」の展示を予定しています。百聞は一見に如かず、ぜひお越しください。

(学芸員 安藤亮)

2024年

# 旧家で芸能・伝統文化～錦影絵ぷろじえくと2～

わーくしょっぷ開催!

## 錦影絵って、どんなん?

◎5月3日(祝・金)13時30分～15時



復元された幻燈機(通称“風呂”)



動きを演出する種板(スライド)



協力:錦影絵池田組

旧家で芸能・伝統文化～錦影絵プロジェクト2～  
ワークショッップ  
**錦影絵って、どんなん?**

昨年好評を得た「錦影絵プロジェクト」。伝統芸能である錦影絵を半年間メンバーとともに練習し、本格的な演目の上演を目指した。今年も新メンバーを募集し、6月から11月にかけて練習と上演を行います。

プロジェクト2の実施に先駆け、メンバー募集と錦影絵をより身近に感じてもらうようと、5月3日(祝・金)にワークショッップ「錦影絵って、どんなん?」を開催しました。ワークショッップでは、前メンバーによる錦影絵の試演と、幻燈機に差して使うオリジナルの種板作りがメインとなりました。

まず最初に、昨年上演した「憑いてない日」の抜粋を前メンバーが披露。短い時間ながらも参加者は熱心に鑑賞し、このあとのワークショッップに期待を膨らませます。錦



影絵池田組のメンバーによる簡単な解説もあり、次の工程へ。

今回の種板(スライド)作りは、あらかじめ用意した制作キットを使い、参加者はグループに分かれて、それぞれお題となるテーマに沿って自由に絵を描いてもらいました。出来上がった種板は最後に幻燈機で投影し、即興の物語を演じてもらいます。

「海の生き物」「草原の動物」各組とも、独創的でかわいい種板に仕上げ、幻燈機の使い方を習うと、いよいよスクリーンに自分の描いた絵が投影されました。物語にあわせて動き回る絵と参加者たち。錦影絵の世界に浸ることができました。

(錦影絵プロジェクトスタッフ)



## こども対象イベント

# こども 昔くらし 体験

あついよ〜夏編

2024.7.27 (土)

夏と冬の年2回、こどもを対象に昔のくらしを体験する「こども昔くらし体験」の夏編を7月27日(土)に行ないました。定員は毎回5名と少数で、今回は二人の小学生と保護者の方も一緒に参加をしました。

いつもは午後のイベントですが、連日の猛暑を考慮し、今回は午前中に実施。それでも暑い夏。まずは涼しい講座室で座学の後、風通しの良い主屋を体験。再び涼しい土蔵の

### こども昔くらし体験〜夏編〜

見学後は、井戸水で打ち水と水鉄砲をし、遊びながら気温(体感温度)を下げました。最後は縁側で納涼を楽しみ、昔の家の夏の過ごし方をしみじみと感じました。(スタッフ)



打ち水で気温が2℃も減少!!



座敷の縁側でひと休み

きゅうか きねん さつえい  
旧家で記念撮影

2024.5.5(祝・日)こどもの日企画

# 新聞紙で かぶとを 作ろう!

5/5こどもの日企画  
「新聞紙でかぶとを  
作ろう」

5月1日(水)〜26日(日)の期間は「旧家で記念撮影〜こどもの日〜」を実施。座敷に飾る五月人形などの前で自由に記念撮影ができます。また5月5日(日)は、こどもの日企画として今年も「新聞紙でかぶと作り(折り)」をこども対象に行ないました。

当日は近くの渋川神社でイベントが行われ



ていたため、その影響(恩恵)を受けて、朝から親子が新聞かぶとを作りに来てくれました。ここ数年、新聞を読む人も減っているようで、こどもにとっては新聞紙そのものが珍しく、なぜ新聞紙でわざわざかぶとを作るのか意味が分からなかったのではないかと思います。

午後イベント効果でこどもたちが沢山訪れ、楽しそうに新聞紙を折って、作って、かぶって、撮って、持って帰りました。



2020 (R2)

「古文書にみる植松」(4月)

植松関連文書、絵図など

※コロナ禍 (休館)

「夏の扇 (おうぎ)」(7月)

扇子、団扇など

※コロナ禍

「昔のくらしはエコなくらし」(1月)

3R、買い物かご、風呂敷、継ぎ接ぎ、燃料など

※コロナ禍

2021 (R3)

「旧植田家時計展、時刻巡り」(4月)

時計、時刻関連資料

※コロナ禍 (休館)

「みんなの戯画展」(7月)

廣作(偽画)=戯画 の掛軸

※コロナ禍

「昔のくらし、電気のあるくらし」(1月)

電化製品、電気製品

指定管理更新 ↑第3期

↓第4期

2022 (R4)

「ぐるり春夏秋冬、雪月花」(4月)

四季の掛軸

「旧植田家、大運動会。」(9月)

運動(事業、政治、教育)関係文書

「昔のくらし、映・屋・灯」(12月)

灯り・光・影に関する道具

2023 (R5)

「植田家の(照明じゃなく)証明」(4月)

文書資料(事業関係)

「関東大震災100年」(9月)

茂治氏記録写真、雑誌・新聞資料

「昔のくらし~火ひと日~」(12月)

火の道具

2024 (R6)

「開館15周年記念展示 前編」(4月)

貼り交ぜ屏風、美術工芸品

「開館15周年記念展示 後編」(9月)

煎茶道具

「そ・そ・ぐ、昔のくらし」(12月)

ポットなど

(指定管理者NPO法人HICALI)

## 【特集】開館15周年記念 企画展15年の歩み



2009年旧植田家住宅一般公開当時から15年間の企画展チラシを一堂に展示(「開館15周年記念展示」より)

### 【特集】開館15周年記念

## 企画展15年の歩み

2009年5月6日に安中新田会所跡旧植田家住宅が一般公開されて今年で15周年を迎えた。指定管理者として最初の企画展(特別展)は「植田家を語るものたち」。その後、第二弾や第三弾として周年ごとに企画し、とにかく旧植田家住宅には色々なものがあるということを印象付けた。

当初は年に4回以上の企画展が開催されていたが、2017年の指定管理者更新以降は年に3回以上となっている。また内容は「昔のくらし」に特化した企画展が必ず入っており、小学校からの見学にも対応している。よくある「企画展ではあるが、展示物はかなりマニアックで、教科書に載っていないものも多い。」

企画展の歩みを振り返ってみると開館4周年なのに「開館5周年記念展」を開催していたなど、おかしなことにも気付くが、建物以外の魅力の一つとして収蔵品の豊富さに驚かされる。今後も企画展を通じて様々なものに光を当て続けたい。

(NPO法人HICALI)



# 過去の企画展まとめ 2009～2024

## 2009 (H21)

- 「開館記念特別展 植田家を語るものたち」(5月) 貼り交ぜ屏風、扁額、茶道具、大皿、漆器、節句幟、大津絵など
- 「大和川付替えと新田開発」(7月) 安中新田分間絵図(複製)、河内木綿資料、中甚兵衛関連(個人蔵)
- 「新田開発と人びと～くらしのなかの祈り～」(9月) 鎮宅霊符、家相図、仏画、伏見狐、七福神盃など
- 「新田開発と人びと～植田一郎コレクション～」(11月) 掛軸、屏風、茶道具
- 「装よそおう」(3月) 鏡、櫛、筭、簪、根付け など

## 2010 (H22)

- 「開館1周年記念展 植田家を語るものたちII～幕末・明治の名品～」(4月) 掛軸、扁額、画帖、書籍など
- 「植田家にのこる戦争資料展～戦時下のくらし～」(6月) かるた、双六、防空カーテン、カバー、生活雑誌、出征のぼりなど
- 「植田家と大坂画壇II」(10月) 掛軸、画帖ほか
- 「家相図・屋敷図にみる旧植田家住宅の歴史」(1月) 家相図、屋敷図、地籍図(山清荘寄贈)

## 2011 (H23)

- 「金属のうつわ」(4月) 銀器、銅器、鉄器、錫器
- 「昭和のくらし」(7月) 弁当箱、ソケット、行火、炬燵、ラジオ、水枕など
- 「植田家と大坂画壇II」(10月) 山水図、節句幟(周仙I)
- 「植田家の漆器」(2月) 盆、椀、重箱 など

指定管理更新 ↑第1期

↓第2期

## 2012 (H24)

- 「書画にみる植田家の幕末明治維新」(7月) 掛軸、扁額、屏風
- 「植田家コレクション 大津絵」(11月) 大津絵、書籍
- 「道具からみるちょっと昔のくらし」(1月) 柳行李、下駄、草履、など「衣食住」の道具
- 「植田家にのこされた河内木綿」(3月) 河内木綿資料、検地帳

## 2013 (H25)

- 「開館5周年記念展・前期 植田さんちの名品 お室～植田家をかたるものたち工芸品～」(7月) 大皿、火鉢、重箱、茶道具等
- 「開館5周年記念展・後期 植田家をかたるものたち～書画編～」(11月) 貼り交ぜ屏風、絵巻
- 「昔のくらしと道具～箱・ハコ・はこ～」(1月) 箱の道具
- 「八尾の鉄道～鉄道のある風景とくらし～」(3月) 駅舎写真パネル、河内鉄道など鉄道資料、看板(JR)、レール(柏原)

## 2014 (H26)

- 「WA0! 和本～植田家の書籍～」(7月) 書籍類
- 「飾る～植田家を飾るものたち～」(11月) 打掛、振袖、飾りほか
- 「ちょっと昔のくらしと道具」(1月) ほうき、ガスかまど、ひげ剃り、時計など、季節と時代の道具
- 「八尾のまちなみ～植田家周辺にみる今昔風景～」(3月) 踏切の写真、煉瓦の写真、カタン関係

## 2015 (H27)

- 「植田家と新田開発」(6月) 検地帳(文化財指定)、大和絵図3枚、他
- 「くらしを彩る 植田家の陶磁器」(7月) 色やきもの=陶磁器類(大皿、香炉、盃洗、鉢、茶碗など)
- 「植田家の花鳥風月～大阪画壇III～」(10月) 大阪画壇掛軸(花鳥風月)
- 「なぞ、なぞ、昔の道具」(1月) ひのし、はいせん、らんびき、謎の箱など

## 2016 (H28)

- 「ぼく、墨蹟」(4月) 書画(墨蹟)、硯箱
- 「植田家のお茶道具」(7月) お茶道具全般
- 「植田家にのこる浮世絵!!」(10月) 浮世絵、肉筆
- 「昔のくらしの道具365日」(1月) 一年の暦と年中行事等の道具

指定管理更新 ↑第2期

↓第3期

## 2017 (H29)

- 「植田家の祈りと願い」(4月) 仏画、大津絵、鎮宅霊符など(2009祈り展の発展形)
- 「植田家に潜む”鳥”」(10月) 鳥の掛軸ほか
- 「昔のくらしシリーズ:衣の道具」(1月) お針箱など、着物類、服飾関係

## 2018 (H30)

- 「植田家にのこる絵図と地図」(4月) 絵図、地図 大和地図・全図
- 「新田会所、時々鉄道」(10月) 鉄道関連資料+会所関係資料 縁の一品(各新田3会所)
- 「昔のくらしシリーズ:食の道具」(1月) 酒器

## 2019 (H31・R1)

- 「開館10周年記念展示 前期」(5月) 工芸、貼り交ぜ屏風、木綿資料
- 「開館10周年記念展示 後期」(7月) 浮世絵、掛軸、巻物
- 「意匠(デザイン)展」(10月) つばつば、象牙、刀装飾など
- 「昔のくらしシリーズ:住の道具」(1月) 教科書に登場する昔の道具 ※コロナ禍(初期)

雑記帳  
**旧植田家住宅**  
 - 日常から日用まで -

続・河内木綿のまち・やお

「旧植田家住宅 第9日：試行錯誤の綿毛フェルト!」(『旧植田家だより』52号掲載)に続いて「河内木綿のまち・やお」の話題です。河内木綿は江戸～明治時代の河内地域で産業として栄え、現在は八尾市内をはじめ各地で伝承として様々な形(事業)で耳にすることがあります。旧植田家住宅でも河内木綿関連事業として綿の種や苗の配布、育て方のアドバイス、資料展示、その他の活用を続けています。

第14日：河内木綿のまち・やお



cotton!



通称 踏切木綿



八尾駅前花壇の苗植え

【5～6月は種・苗の配布】

4月ごろ八尾市内では「河内木綿の種」の配布が行なわれています。旧植田家住宅でも毎年5月に2週間ほど種を無料配布しています。取りに来られる方はわずか。それもそのはず、6月に同じく「綿の苗」を配布するからです。それを知っている方は(より楽な)苗をもらいに来るのです。多分。苗は駅前花壇(まち協との連携)の余りや観光ボランティアアガイドの会(地域連携)からの提供で、畑の分と合わせて100本以上用意していますが、数日でなくなり。恐るべき無料の、いや河内の力。配布した種や苗は、個々人で栽培や歴史を楽しみ、その後でできた実綿を旧植田家住宅まで持ってきてもらおうと、「木綿



日々陣形が変わる木綿の苗

体験」や来年の栽培にも活用でき、また種や苗の配布ができます。これぞまさに循環型の「河内木綿のまち・やお」です。

【#カップ綿<sup>めん</sup>】

今年には綿の水耕栽培の実験も行なっています。最初は根が少し出た種をゼリーの空カップに入れて水に浸して放置。いつの間にか水だけでニョキニョキと育ち、葉を増やしていききました。途中カップを少し大きい物に移し替え、現在に至ります。

畑では花が咲いて綿が吹き出した8月の半ば、カップ綿は相変わらず葉のみ。一体いつになったら花が咲くのか。実験という名の楽しみが続きます。



## 特別寄稿「『バケモンの涙』の奇跡②」

前号(56号)からの続きです。『バケモンの涙』(歌川たいじ著、光文社。現『いとはんのポン菓子』)にまつわる、現在八尾市で子ども食堂などの活動をする方から頂いた“奇跡”の物語をお届けします。

(…続き)

その後、新型コロナも落ち着きをみせ、少しずつ普通の生活が戻り、公共施設もマスク着用、消毒や人数制限などの条件付きで使用可能になってきました。

待ちに待った龍華コミュニティセンターでの子ども食堂の再開でしたが、やはり子どもたちもスタッフも以前のように集まりませんでした。それも仕方のないことだと思いつつ、みんなが集まれる場所としていくため工夫が必要だと感じていました。しばらくは持ち帰り用のお弁当を作り、配布だけを行うことにしました。するとまた少しずつ子どもたちも戻ってきました。

ようやくコミセンで作って食べるいつものスタイルに戻ったのは、2022年6月からのことでした。

その後、2023年2月に八尾市で開催される「日本の食まつり」への参加依頼が子ども食堂にきました。イベントの趣旨に賛同し、子ども食堂として何が出来るのかを検討し、1つは絵本の読み聞かせのメンバーでの「絵の本ひろば」、そしてもう1つは、以前できなかった「お米をポン菓子に変えて子どもたちに配ろう」という企画が日の目を見ることになったのです。

『バケモンの涙』の舞台と同じ龍華の地で、主人公の橘トシ子さんが持っておられた「子どもたちへの思い」に時を超えて私たちも共感し、今度こそ実現できることになったのです。

開催を心待ちにして迎えた当日、午前・午後2回“ポン”をし、計200食を配布。子どもたちは「バァーン！！」というポン菓子機の大きな音にビックリし、ご年配の方々からは「懐かしいわぁ」と、とても喜んで頂けました。そしてご協力いただいたポン菓子屋さんのポン菓子機がなんと偶然にも橘トシ子さんが興した北九州市の「タチバナ工機」製だったことと、「開業前、橘トシ子さんから直々に機械の取扱いの説明を受けた」ことをお聞きし、びっくりとともに益々不思議なご縁に感動したのです。

それから1ヵ月後、さらにミラクルなことが起こりました。外出先の北九州で友人宅に泊めてもらっていた際、何気に地図を見ていると、なんと友人宅の地区はあのタチバナ工機のある地区の隣町だったのです。たまたま撮っていたイベントのポン菓子機の写真に住所や電話番号が写っていたのです。

何かに呼ばれている気がして、これまでのことをどうしてもお伝えし、お礼を言いたい！と思い立ち、その住所に向かいました。事前に電話をしても繋がらず、お会いできないかもしれないがとりあえずという気持ちで、心を弾ませ、あっという間に到着。いざチャイムを鳴らすと、やはりお留守でした。

少しガッカリしましたが、せめて八尾の龍華から来たこと、仲間と子ども食堂をして橘トシ子さんのお話に感動したこと、そしてそれがきっかけでポン菓子をイベントで配り、みんなの笑顔が見られたことを伝えたく、持っていた便箋を取り出し、手紙にしたためてポストに入れて帰りました。(次号に続く)

元 子ども食堂“夢うららほっとステーション”・八尾で絵の本ひろば広げよ会 池田多瑛

# 四会所だより (37)

「会所寄席」のはじまり

〜加賀屋新田会所編〜

2013(平成25)年11月17日が「第一回 会所寄席」の始まりです。

まち案内ボランティアが住之江区役所主導で発足し、およそ10年が経過した頃です。当時、会長から「会所をもっと広く知ってもらう方法を模索したい」との提言があり、早速、メンバーから提案されたのが、ガイド内容を視覚化しようとは何種類かの紙芝居を作成することでした。

今でこそ、ナレーション入りのビデオを駆使していますが、当時は文字通り手作りで、新田にまつわる内容のものをいくつか制作し、メンバーが演じながら寄席と共に定着していくことになりました。

二番目が、会所を会場としての寄席開催です。

「こんな所があったのか!」が狙いです。寄席の具体化については、まず交渉に動くことからでした。大阪市指定文化財であるが故の制約を一つ一つ取り除く為に、区長へのプレゼンテーション、区役所、管轄の公園事務所との交渉等、種々会長には尽力いただきました。

開催可能となつてからは、実施要領の作成、チラシの制作、ポスターの手配、自治会長等への挨拶、依頼、会場(書院・次の間)の障子の張り替え、縁台を利用しての高座作り、名ビラ立て等々全員が創意工夫を加えていきました。回を重ねるごとに、照明、遮光を改良し、昇り旗の新調、スツールの手作り等も充実していきました。

演じるのは、アマチュアの社会人落語家(お笑い福祉士)落語家の笑福亭學光師匠が主宰するボランティア芸人養成講座修得者の称号。各種施設、学校等に訪問活動)3名。

三題の落語と会のメンバーによるビデオ上映は定番のプログラムとなり、時により「活動の紹介」「会所にまつわる逸話」等の

話題を交えつつ、2022(令和4)年11月23日に10回目を数えました。

特記すべきは、2020(令和2)年からの3年間、新型コロナウイルスで中であつたにもかかわらず「出前寄席」の形で、会所から場所を移し開催を続けた会のメンバーの団結でした。

(住之江のまち案内ボランティアの会 山本昌男)

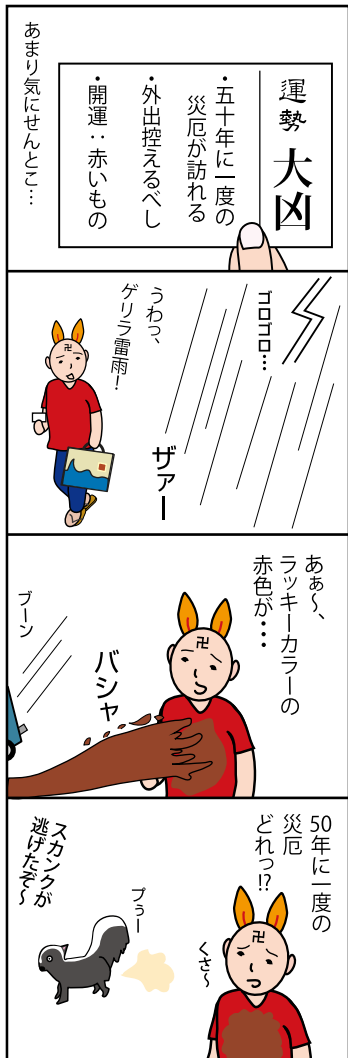
## 【お知らせ】

・現在、鴻池新田会所(東大阪市)は、耐震工事実施のため休館中です。再開は令和7年度中の予定(東大阪市ホームページより)。

・加賀屋新田会所・加賀屋緑地(住之江区)も近日中に耐震工事が予定されています。詳しくはホームページ等でご確認下さい。今回紹介した住之江のまち案内ボランティアの会が活躍する「出前寄席」および「すみのおアートビート」等のイベントは今秋に開催予定です。

# マンジーくん

安富士 咲



## 植ちよぴ。(ックス)

「植田家住宅の・ちよっとした・トピックス」

### ① 納涼企画「冷やし旧家、はじめました。」

≪2024年7月3日(水)～9月8日(月)≫

ここ数年、夏の暑さが早く、酷く、長くなっていると感じて、今年の納涼企画「冷やし旧家、はじめました。」は早く、長く行なうようにした。

その予想をはるかに上回り、6月中旬ごろからすでに暑くなり、開始が待遠しいものとなった。

ラムネの売れ行きに期待していたが、7月は酷暑のため来館者どころか外を歩く人もほとんどなく、後半に期待。



井戸で足水体験とラムネ

### ② かまどで八尾えだまめカレー

≪2024年7月21日(日)≫

今年度より旧植田家住宅では、八尾の特産品である八尾えだまめを使用した「八尾えだまめキーマカレー」



500円にて販売中 ※2024年8月末現在

(fodorikinsu いろどりきんてつ)を販売することになった。今回これを記念し、かまどご飯でカレーを食べるイベントを急ぎよ企画し、HPとSNS限定で募集を行なった。

当日は参加者とかまどでご飯を炊き、枝付きの新鮮な八尾えだまめを茹で、さらにカレーも湯煎し、各々で盛り付けをしてもらった。夏のご飯炊きの苦勞とキャンプで食べるカレーを思い出しながら八尾を味わった。



かまどご飯と枝豆カレー

### ③ 錦影絵プロジェクト2、進行中

2024年6月～11月

幻燈機を使った江戸時代の伝統芸能「錦影絵」を演る「錦影絵プロジェクト」は、昨年11月に上演し人気を博した。今年度も再びメンバーを募集し、11月の上演を目指して6月から約2時間の練習を月2回程度行なっている。

今年は新メンバーが加わり、新しい演目にも挑戦。また11月の上演以外に外部からの公演依頼もあり、メンバー内には適度な緊張感と期待感が漂っている。月2回(不定期)の練習の様子は随時Xにて発信。希望があれば見学も可。11月4日(振休・月)に上演を予定している。



錦影絵の練習風景

### ④ 植田家ボランティア養成講座

≪2024年6月～8月≫

旧植田家住宅での団体見学の案内やイベントのサポート等を行なう植田家ボランティア(植ボラ)の養成講座。6月からの開講予定であったが、応募がなかったため、2年連続で不開講となった。

現在登録されている植ボラスタッフは9名。開館当初からのメンバーもあり、最近はコロナ禍以降に減った活動機会も徐々に回復し、研修などを行ないながらその時に備えている。

## 落穂拾い

## ―今東光の董風―(五十一)

文・伊東健

今年、没後四十年になる有吉佐和子さんの記念館が和歌山市に令和四年六月、開館しています。

有吉作品は現在でも多くの新しい読者を獲得していますが、彼女が第十五次新思潮に参加し、文壇への足がかりとしたことは意外と知られていないかもしれません。新思潮は明治期に小山内薫が創刊し、第二次では谷崎潤一郎や和辻哲郎、第四次では芥川龍之介、菊池寛、そして第六次では川端康成が継承し、今東光も参加していた雑誌です。

新思潮には縦の会というのがあり、先輩後輩での集まりが不定期で開催されていたようです。その席上で、有吉さんは東光と初めて会いました。谷崎潤一郎が重鎮として参加していたなかで、東光は格式ばらずに座を盛りあげ笑いを誘い、異彩を放っていたと有吉さんは書き残しています。

二人の再会は意外に早く、縦の会からほどなくして、谷崎潤一郎全集出版記念講演会の講師として顔をあわせました。東光の爆笑トークを期待していた有吉さんは、宴席とは異なり神妙に「わが師」を語る東光に驚くと同時に、そのギャップに惚れ惚れとしたようです。

とうとう有吉さんは仕事を絡めつつ、東光が住む天台院への訪問を実現させます。

雨上り、晴れた空の下を、和尚さまが河内の国を御案内下さるといこう。

「いとうでしよう？いとうでしよう？うが？」

「みみづく説法」の登場人物の、あれが誰の家、これが彼の家。あの話は、あの家のカミさんがモデルですぞ。等々、その合の手にならず、「どうですか、河内はいい国でしよう？」と入る。(後略)

〔有吉佐和子 連載訪問記第2回河内国・八尾市中野に話題の作家・今東光先生を訪ねて 天台院の和尚さま(昭和三十三年(一九五八年)「婦人画報」七月号所収 婦人画報社発行)〕

約半年後の昭和三十四年一月から有吉さんの初期代表作になる「紀ノ川」の連載

が始まります。東光も連載していた春泥語抄を完成させ、人気作家となり時代を駆け抜けていきます。東光は昭和五十二年九月十九日、有吉さんは昭和五十九年八月三十日に逝去しますが、二人の共通点として膨大な仕事量をこなしながら全集が刊行されなかつたことがあげられるでしょう。

紹介した記事中には天台院門前と縁側で撮影されたツーショットの二葉の写真も掲載されています。ふたりの交差した時間がいかに楽しいものであったかを雄弁に物語る素晴らしい記録であり、一期一会という言葉を思い出さずにはおられません。



「有吉佐和子 連載訪問記第2回 河内国・八尾市中野に話題の作家・今東光先生を訪ねて 天台院の和尚さま」(昭和33(1958)年「婦人画報」7月号、婦人画報社発行)に掲載された有吉さんと今東光のツーショット写真

# 旧植田家住宅のご案内

2024年  
9月～12月

## これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」  
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

### 展示

2024年

◎9月7日(土)～12月2日(月)

企画展②「開館15周年記念展示・後編」

★9/16(振休・月) 展示解説の日(学芸員の立ち話)

◎12月7日(土)～3月10日(月)

企画展③「そ・そ・ぐ、昔のくらし」

展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



### イベント

(詳しくはお問い合わせください)

9月 1日(日) 防災!かまどでご飯炊き体験

15日(日) 旧家で観月会(夜間開館)

10月 19日(土) 講演会「煎茶の世界」(仮) 13:30～

★10/2(水)～12/2(月) ギャラリー展示「航空写真にみる八尾」

11月 4日(振休・月) 錦影絵プロジェクト2「上演」

16日(土) 植松灯籠の日(夜間開館)

★11/16(土)・17(日) 「関西文化の日」により入館無料

★11/1(金)～24(日) 旧家で記念撮影 ～七五三～

12月 14日(土) こども昔くらし体験～冬編～

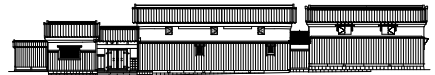
21日(土) おもちつきの会&ミニ鏡餅を作ろう

※予定は変更する場合があります。



## 休館日カレンダー

■ = 休館日



9 September

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10 October

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

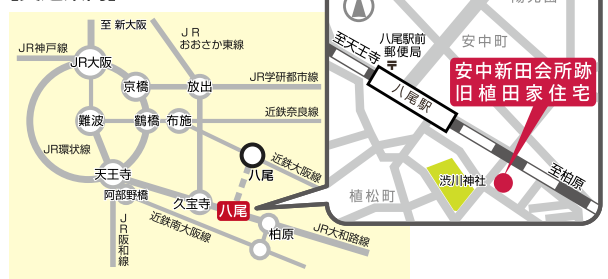
11 November

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12 December

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

### 交通案内



- ◇ JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
- ◇ 近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行  
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分
- ※当施設には駐車場はありません。車でのご来館はご遠慮ください。

- 開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始  
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)
- 入館料：一般250円(団体20人以上で120円)  
高校・大学生120円(団体60円)  
※中学生以下、身体障害者手帳等の所持者および介助者は無料
- お問い合わせ(見学の相談、講座室の予約なども受付)  
〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25  
TEL/FAX：072-992-5311  
E-mail： info@kyu-uedakejutaku.jp

### #編集後記(8・14)

今年の夏は例年よりも暑く、お盆休みが明けてもなお暑さが続くようです。▼旧植田家住宅では納涼企画「冷やし旧家はじめました。」や「まちなか避暑地」として涼しい場所づくりに努めています。実際に古民家の中は風通しがよく、井戸水で打ち水をするので気温も少しだけ下がります。風鈴の音が涼しさを誘い、今の感覚でいうと「暑い」ですが、やはり「涼しい」といえます。そのわずかな涼を求めて外に出るかそれが問題だ。

# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。  
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。  
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、  
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、  
地域経済を活性化させたいと思っています。

